



CONTENTS



- 理事長挨拶
- 学術研究助成事業
 - 近年助成した研究からご紹介



- 食文化の振興・啓発活動
 - 令和6年度食文化復興支援事業
 - 活動紹介 災害食を知って助け合う仲間を増やそう
 - 浦上ランチプロジェクト(ラオスにおける学校給食プロジェクト)
 - こども食堂支援助成事業
 - 読売写真ニュースを学校に寄贈/フードピア金沢を支援



- 広報活動
 - 研究報告書の発行
 - 財団ニュースの発行
 - 編集後記

理事長挨拶

2025年の幕開けとなりました。昨年も浦上財団は、研究助成事業と食文化復興支援事業の二つの大きな柱を中心に、ラオスでの学校給食プロジェクトやこども食堂支援助成事業など様々な活動に取り組みました。これも財団を日頃よりお支えいただいている皆様のお陰と、心より感謝申し上げます。

昨年、私は仕事とプライベート両方でいろいろな国を訪れる機会がありました。夏に訪れたフランスのボルドーやシャンパーニュの広大な葡萄畑では、「テロワールが世界に名だたるワインやシャンパンを生み出しているのだ」という生産者の方々のお話は大変興味深いものでした。「テロワール以上のワインはできないのだ」と、その土地や環境に感謝しながらも、様々な新しい試みにチャレンジし、よりよきものを作ろうとする生産者の方々に「食を守ること」と「食の未来のためにチャレンジすること」の両方を同時に追求することの大切さを教えられました。また、昨年二度訪れたインドでは、10日間飽きることなく毎日いわゆるインドカレーを楽しみました。人口のほとんどがヒンドゥー教とイスラム教のため牛豚は

厳禁。野菜や豆類中心の食材を、暑い気候の中で美味しくバリエーションを持たせて食べるために、様々なスパイスが上手に使われていることを身をもって体験しました。アーユルベダの思想が生活に根付いており、医食同源～まさにスパイスの醍醐味がそこにありました。このように昨年の旅は「風土とフード」の深い関わりを感じる実り多きものでした。

翻って、日本国内を見渡しても、その地方や土地が生み出す特徴ある食があります。食文化復興支援事業は、災害のみならず、核家族化や過疎などの社会問題等々で失われつつある食や食文化を守り、また、発展させるための活動に助成の幅を広げ、たくさんの応募を頂きました。また、研究助成事業においても、各研究が既存の食品から新しい発見を生み出し、食品科学の未来に貢献されることと確信しております。食を「守ること」と「未来を見据えて前進すること」～二つのことの大切さを心に刻み、浦上財団は今年も広く活動していきたいと考えております。

本年度も財団の活動をお見守りいただきますようよろしくお願い申し上げます。



ボルドーにて



ムンバイにて

食文化の振興・啓発活動

読売写真ニュースを学校に寄贈

浦上財団のロゴともなっている『「食」は「人」に「良」いこと 元気のもと』をパネルに用い、「食育活動」に熱心に取り組んでいる全国51ヶ所の小学校、中学校、高校、図書館に教材資料として毎週写真ニュースを提供しています。提供先の小学校等の児童生徒たちからの関心も高く、写真ニュースは学校教育にも有効であるとのことから、引き続き提供願いたいとの要望が寄せられています。



高校等に寄贈しているパネルの一例

寄贈校からの声

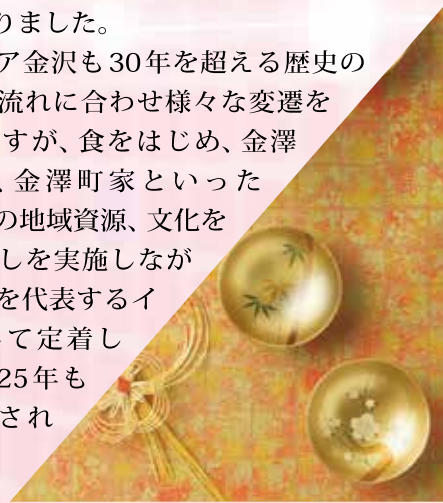
- デジタルでの情報獲得が当たり前になってきている中で、大きな写真に要旨だけ書かれた記事に子どもたちは興味津々です。
- 教員にとっても、授業や朝や帰りの学活など、時事的な話題を提供するための一つの手段となっており、参考になるところが大きいです。
- ICTの急速な発展により教育は大きく変化しています。子どもたちの活字離れも進んでいます。こんな時代だからこそ、子どもたちに新聞や文字に触れさせる機会がより大切だと考えています。
- 写真ニュースから時事問題に興味をもったり、新聞や活字を読もうという意欲が育ってほしいと教職員一同願っており構内で一番目立つ場所に掲示させていただいております。
- 写真ニュースの内容を定期考査の範囲に指定し、実際に試験問題として出題するといった活用事例もあります。

フードピア金沢を支援

独自の食文化と石川県の冬の日本海の海の幸・加賀野菜を紹介する食のイベント「フードピア金沢」は毎年2月に金沢市及びその周辺地域で開催され、当財団は第1回(1985年)より継続して支援しています。

第39回目となった昨年も、金沢老舗百年會会員のお店で食事と講師による金沢文化の話を堪能する「金沢老舗よもやま話」、金澤町家食めぐり、デパートや金沢の有名なホテルを会場とした冬の金沢の味を楽しめるイベントは2月1日から28日まで開催され、各地より多くの参加者で盛り上がりました。

フードピア金沢も30年を超える歴史の中で時代の流れに合わせ様々な変遷を遂げていますが、食をはじめ、金澤芸妓、老舗、金澤町家といった金沢ならではの地域資源、文化を活用した催しを実施しながら金沢の冬を代表するイベントとして定着しており、2025年も2月に開催されます。



広報活動

研究報告書の発行

助成した研究のうち一昨年秋までに報告をいただいた研究結果をはじめ論文発表が終わり公表可能となった研究結果17件を浦上財団研究報告書Vol.31として取りまとめ、昨年3月に発行し、全国の研究機関附属図書館や都道府県立図書館にお送りしました。

また、昨年秋までに当財団に提出された研究報告を収めた研究報告書はVol.32として今年3月に発行する予定です。



財団HPのリニューアル、財団ニュースの発行・財団リーフレットの配布

学術研究助成事業や食文化復興支援事業の告知、申請や結果発表をはじめ、当財団の活動をHPにてお知らせをしています。また、学術研究助成事業と食文化復興支援事業の申請をオンライン申請にし、日頃の助成対象者との連絡の利便性を高めるため、各助成者とはマイページでのやり取りを行っています。

ほかにも財団の事業活動などを紹介するため写真を多く掲載した財団ニュースを毎年1月に発行しております。



編集後記

本年度は、当財団行事の理事会、評議員会、選考委員会、贈呈式など対面で行うことができました。理事の皆様、監事の皆様、評議員の皆様、選考委員の皆様のご温かいご支援とご協力によりまして、つつがなく事業の実施を行ってまいりました。あらためまして皆様に感謝を申し上げますとともにお礼を申し上げます。

来年度は財団設立40年を迎えます。令和7年4月6日には研究助成同窓会・シンポジウム、令和8年3月17日には40周年記念式典も行います。財団のモツ

トである「食」は「人」に「良」いこと、元気のもとを合言葉に、明るく元気に前向きに職務を全うしていきます。

令和7年度も浦上聖子理事長はじめ役員の皆様のご指導をしっかりと受け止め、謙虚な姿勢で誠実に財団運営に頑張っていく所存です。
(大豆生田 清志、浦上 佳江、戸田 俊一)



〈お問い合わせは下記まで〉

公益財団法人 浦上食品・食文化振興財団

〒102-8560 東京都千代田区紀尾井町6番3号 ハウス食品グループ本社ビル

電話：050-3532-6365 FAX：03-3264-6188

URL: <http://www.urakamizaidan.or.jp> (お問い合わせはHPのお問い合わせフォームをご利用ください)

